

# 日本語の「と」「や」と中国語の“和”の対応 関係に関する一考察

馮 元

キーワード：並列表現、日中対照研究、「ト・ヤ」、「カ」、「和」、「或」

## 要 旨

並列表現は、日本語と中国語で頻繁に使用される言語表現の一つである。本稿で扱うのは、名詞句同士の並列に関する問題である。主に日本語の並列助詞「と」「や」「か」と中国語の並列接続詞“和”“或”を対象とする。中国語の“和”と日本語の「と」「や」の用法上の最も大きな相違点は、“和”が動詞・形容詞をつなぐことが出来るのに対し、「と」「や」が名詞<sup>\*1</sup>をつなぐことしか出来ないという点である。そのため、本稿では、考察対象を“和”の前後が名詞<sup>\*2</sup>の場合に限定する。また、“或”と「か」も前後が名詞の場合のみを考察対象とする。本稿では、それらの意味の異同を軸に論じていく。使用データとしては、先行研究と「中日対訳コーパス」の用例とする。

本稿の結果は、まず、日本語から中国語を見る場合、「と」も「や」も“和”と対応するが、中国語から日本語を見る場合、“和”が要素の列挙を表せば、「と」と対応し、カテゴリーの例示を表せば、「や」と対応するという点である。

次に、並列された各要素と述語や他の要素がどう結び付くのかという問題に関して、「か」と“或”は対応しているが、「と」「や」と“和”には重なる部分もあり、異なる部分もある。一般的には、“和”が「と」と対応し、「かつ」を表す。従って、「と」と「や」が「または」の意味を表す際は、“和”と対応しない。一方、“和”が二つの条件を満たせば、「または」を表すことができる。対立条件の場合「か」と対応し、選択条件の場合「と」と対応する。

---

\*1 代名詞と名詞句を含める。

\*2 名詞化するものであれば、考察範囲に入る。以下の例のように、単語自身の品詞は形容詞あるいは動詞であるが、“和”で繋げ、主語か目的語として存在すれば、名詞化される。例：①高兴和着急是两回事。（喜びと焦りとは違う。）②他就喜欢作诗和画画儿。（彼は作詩と絵画が大好きだ。）

## 1. はじめに

従来、日本語の「と」「や」は並列助詞として使われ、中国語の“和”と対応すると言われた。一方、「か」は選択関係を表し、中国語の“或”と対応すると言われた。

- (1) a. 理论学习和调查研究都很重要。  
b. 理論の学習と調査研究はともに重要である。  
(北京・商務印書館、小学館(1992) : p.554)
- (2) a. 不论刮风、下雨和下雪，他天天准时到校。  
b. 風が吹こうが雨や雪が降ろうが、彼は毎日時間どおり学校に着く。  
(伊地知(2002) : p.536)
- (3) a. 他全家明天或后天动身。  
b. 彼の一家は明日かあさって出発する。

この二組みにははっきりした境界があるように見えるが、実は重なる部分もある。

- (4) a. 考学和就业，你必须尽快作决定。  
b. 進学か就職か、早く決めなければなりません。(作例)
- (5) a. 学校の出入りには従業員証明書や学生証が必要です。  
b. 出入校门必须凭工作证或学生证。  
(侯(1998) : p.274)

このように、「和」と「或」は使用頻度が高い語であるにもかかわらず、日本語との対応関係は未だはっきり整理されていない状態である。よって、本稿で考察を試みる。

## 2. 先行研究

### 2.1. 鄭(1989)

1990年まで、「と」と「や」の違いは寺村(1984)の「全部列举・一部列举」の段階に留まっている。いわゆる「と」は全部列举を表し、「や」は一部列举を表すと

いう記述であった。それらと中国語の対照研究も同じ段階に留まっている。いわゆる“和”が要素の列挙を表し、全部列挙であれば、「A 和 B」という形で「と」と対応し、一部列挙であれば、「A 和 B 等々」などの形で「や」と対応するという見方であった。

## 2.2. 安藤 (1995)

安藤(1995)により、「と」の場合には、接続項目は質的に制限がないので、「と」が接続項目の開いた系を持ち、「と」が接続を専らとする表現であると説明した。言い換えれば、「と」で並列された要素は何でもいいということであり、「と」は要素を列挙するために用いられる。それゆえ、本稿では「と」の本質を要素の列挙と考える。

安藤(1995)によれば「や」の場合、接続項目は特定の集合を開き手に推測させる必要があり、質的な制約を受けざるを得ない。よって「や」は閉じた系を持ち、「聞き手にある集合を提示する」という特有の機能をもった表現形式といえる。言い換えれば、「や」で並列された要素は何でもいいというわけではなく、お互いに同じカテゴリーに含まれるという前提が必要である。それゆえ、本稿では「や」の本質をカテゴリーの例示と考える。

## 2.3. 本稿の位置付け

日中対照研究の進展は寺村(1984)の考えを受けた鄭(1989)の段階に留まっている。おおよそ、日本語の「と」はメンバーを全部挙げるのに対し、「や」は一部挙げるといった解釈に基づいて、日本語の「A と B」は中国語で“A 和 B”と訳し、「A や B」は“A 和 B 等々”と訳せばよい、といった対応を想定するものであった。

しかし、日本語の「と」と「や」の使い分けについて、メンバーの全部列挙と一部列挙という分類では不都合な例が出てくることから、再検討が行われ、現在では「と」と「や」の使い分けは、カテゴリー性の有無に関わるといった解釈が一般的になっている。

一方、日中対照研究では、この解釈は未だ取り入れられておらず、旧来の全部列挙と一部列挙という解釈が行われている。本稿では、この段階を脱却し、新しい観点、いわゆるカテゴリー性の有無という観点から、日中の並列表現の再整理を試みる。

### 3. 「と」「や」と“和”の対応関係

「と」が“和”に対応し、「や」が“和……等々”などに対応すると一般的に言われてきたが、はたしてそうなのか。また、日本語の「と」と「や」の違いを「要素の列挙」と「カテゴリーの例示」というふうにと考えると、中国語の方はどうなるのか。これからは例文を通じて分析していきたい。

(6) a. 没有中国和印度的发展, 就没有下一个世纪亚洲太平洋的发展。

(朱(2010) : p.37 例文 1)

b. 中国とインドの発展がなければ、次の世紀のアジア太平洋も発展できない。

c. 中国やインドの発展がなければ、次の世紀のアジア太平洋も発展できない。

(6) を「要素の列挙」の観点から説明すると、「中国」と「インド」という二つの要素を話題として、この二つの要素がどうであるのかということ、これらの発展がなければ、「次の世紀のアジア太平洋も発展できない」という後半の説明が現れる。

「カテゴリーの例示」の観点から説明すると、「次の世紀のアジア太平洋も発展できない」ということが前提になる。また、アジア太平洋の発展に大きな影響を与えた国というカテゴリーを聞き手(読者)にわかってもらうために、例示的に「中国」と「インド」を挙げたということである。

よって、“和”が要素の列挙として認識される場合は「と」と対応し、カテゴリーの例示として認識される場合は「や」と対応することになる。いわゆる“和”は「要素の列挙」と「カテゴリーの例示」という両方の機能を持っていることが分かった。これは、今までの先行研究では触れられていなかった点である。

そうすると、“和”が「や」と対応する際は、カテゴリーの例示として認識できる場合に限られる。

(7) a. 太郎和花子是夫妇。

b. 太郎と(×や)花子は夫婦です。

(作例)

(7)は、太郎と花子の二人の関係が夫婦であることを示すのであり、「太郎や花子」ということを示すことにより、夫婦という概念を導くことではない。二人の関係が

夫婦であることを示すためには、要素を挙げるということが問題になる。一方、「や」を使うと、「太郎」が夫婦、「花子」が夫婦になってしまう。無論それはあり得ないので、「や」を使つてはいけない。夫婦というカテゴリーを示すためには、そのカテゴリーを予測できる要素を挙げる必要がある。たとえば、「太郎花子や次郎良子は夫婦です。」のように、夫婦というカテゴリーを予測できる要素（「太郎花子」・「次郎良子」）を挙げる必要がある。もう一例を参照されたい。

- (8) a.事很凑巧，二十年后，我又在北京听了李淑一同志介绍她和毛主席、杨开慧烈士的亲密关系。 (胡(1996)：p.74 例文 4)  
?b.偶然にも、20年後に、また私は李淑一さんが彼女と毛主席、楊開慧烈士の親密な関係を取り持ったことを北京で聞きました。  
c.偶然にも、20年後に、また私は李淑一さんが彼女と毛主席や楊開慧烈士の親密な関係を取り持ったことを北京で聞きました。

ここで、日本語の場合を考えてみる。中国語のように「彼女と毛主席、楊開慧」と訳すと、三者が並列関係であるため、「彼女と毛主席」の関係、「彼女と楊開慧」の関係という本来の意味が伝えられなくなる。この場合、「彼女と毛主席や楊開慧」と訳するのが適当である。なぜなら、「や」は並列要素が1つのカテゴリーであることを示し、「と」は並列要素が話題の要素であることを示すからである。つまり、話題の中心となっているのが「彼女とXの関係」であり、その「X」というカテゴリーを構成しているのが「毛主席」と「楊開慧」なのである。

以上の(7)と(8)は「要素の列挙」を表す“和”であるため、「と」と対応する。次の例は「カテゴリーの例示」を表す“和”であるため、「や」と対応する。

- (9) 深谷中也有人家，炊烟袅袅，犬吠鸡鸣，牲灵和赶牲灵的人小得如蚂蚁在爬。  
峡谷の中にも人家があつて炊事の煙がゆらゆらと立ち昇り、犬や鶏の鳴き声が聞こえ、家畜やそれを追う人の姿が蟻のように見える。  
(中日対訳コーパス：遙かなる大地)

「要素の列挙」の観点から説明すると、「家畜」と「それを追う人」という二つの要素を話題として、この二つの要素がどんな様子なのかということ、小さくて、「蟻のように見える」という後半の説明が現れる。

「カテゴリーの例示」の観点から説明すると、今視野に入る場面の中の動物や人

物が全部小さくて、「蟻のように見える」ということが前提になる。この視野に入る場面というカテゴリーを聞き手(読者)にわかってもらうために、例示的に「家畜」と「それを追う人」を挙げたのである。

文脈から見ると、明らかに「カテゴリーの例示」という観点からの解釈がより妥当であるため、「や」と訳される。

(10) 清平湾上浮着薄雾, 隐约可见家家窑檐下耀眼的红辣椒, 隐约可闻石碾的吱扭声, 人的吆驴骂狗声, 狗渐愧的讨饶声和驴的引吭高歌。

清平湾は霧がかかり、各家の窯洞の軒先に吊してある鮮やかな赤唐辛子がぼんやりと見え、石臼を挽くゴロゴロという音や、驢馬や犬を叱りつける声や、犬が恥ずかしげに許しを乞う声や、驢馬が高くいななく声がかすかに聞こえた。

(中日対訳コーパス：遙かなる大地)

(11) 吹手摺下了一把唢呐和一个孩子, 这孩子就是随随。

彼はチャルメラ一本と子どもを後に残したが、その子が随随である。

(中日対訳コーパス：遙かなる大地)

例文(10)はカテゴリーの例示であるため、「や」と対応する。例文(11)は要素の列挙であるため、「と」と対応する。

#### 4. “和”“或”からみる「と」「や」「か」に関する一考察

朱(1980)では、“A和B”は“兼有”を表し、AもBも必要条件となっているが、“A或(或者、或是)B”は選択関係を表し、AとBのうち、どちらが必要条件となっていると述べている。また、“A或(或者、或是)B”が表す選択関係には、“兼容性”(inclusive)選択関係と“互斥性”(exclusive)選択関係があると述べている。本稿では、「兼容」或と「互斥」或という呼び方で二分類しておく<sup>3</sup>。朱(1980)での例文と表は以下の通りである。

\*3 言葉で推測できる可能性とするのではなく、実際の現状を言っている。

- (12) a. 你上这家铺子去, 总能买着牛肉或是羊肉。 (“兼容” 或)  
 b. この店に行けば、必ず牛肉か羊肉かがある。
- (13) a. 大水把铁路冲坏了, 你只能坐飞机或是坐船去。 (“互斥” 或)  
 b. 洪水で道路が壊れたので、飛行機か船で行くしかない。
- (14) a. 凡来本校游泳的同志, 须持单位介绍信和本人工作证。 (和)  
 b. 本館に泳ぎに来る人は会社からの推薦状と本人の従業員証明書を持参しなければならない。

(朱(1980) : p.1 例文 2,3,1) (訳文と( )の内容は筆者)

表1 “兼容” 或

| A | B |   |
|---|---|---|
| + | + | ✓ |
| + | - | ✓ |
| - | + | ✓ |
| - | - | ✗ |

表2 “互斥” 或

| A | B |   |
|---|---|---|
| + | + | ✗ |
| + | - | ✓ |
| - | + | ✓ |
| - | - | ✗ |

表3 “和”

| A | B |   |
|---|---|---|
| + | + | ✓ |
| + | - | ✗ |
| - | + | ✗ |
| - | - | ✗ |

(朱(1980):p.2 表 1,2,3)

3節では、並列された要素間の関係について述べた。4節では、その並列された要素がどのようにして述語や他の要素と結びついているのか (いわゆる「かつ」か「または」の問題)、例文を挙げながら分析する。

(15) 今年の正月に、一の矢神社と筑波山神社に行った人は 1000 人いる。

(16) 今年の正月に、一の矢神社や筑波山神社に行った人は 1000 人いる。

(作例)

(15) 「と」の場合、「A + B +」の意味が一番読み取りやすい。一方、「A + B -」「A - B +」の意味は解釈が難しいが、一応そういった解釈もできる。これに対し、(16) 「や」の場合、「A + B -」「A - B +」の意味が一番解釈しやすい。一方、「A + B +」の意味は解釈しにくいだが、そのように解釈することもできる。

なお、(16)「や」の場合、どちらにも行かなかったが、小田野神社に行った人も1000人に含まれるのではないかと。なぜなら「や」の機能はカテゴリーを例示することにある。つまり、カテゴリーさえ想像できるのであれば、それを構成している要素の全てを挙げる必要はないので、「や」の場合は「A - B -」も考えられるのである。そうすると、日本語の「と」と「や」が表4と表5のようになる。

表4 「と」\*4

A B

|   |   |   |
|---|---|---|
| + | + | ✓ |
| + | - | ✓ |
| - | + | ✓ |
| - | - | ✗ |

表5 「や」

A B

|   |   |   |
|---|---|---|
| + | + | ✓ |
| + | - | ✓ |
| - | + | ✓ |
| - | - | ✓ |

図形化すると、以下のようになる。

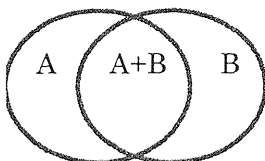


図1 「と」

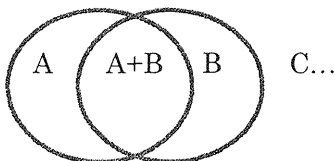
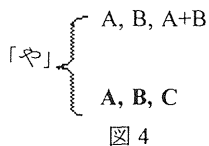
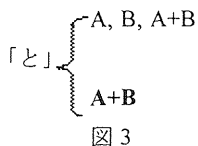


図2 「や」



\*4 四角で囲まれたものは最も使用されやすいという意味である。



以上の表を見ると、ここでも、「と」「や」が「和」と対応しないことが分かった。「と」は“(兼容)或”と対応するが、「や」はどちらとも対応しない。「と」はCにならない。「や」はA + Bのみにならない。

一方、日本語の「か」は“或”と同じく、“兼容性”(inclusive)選択関係と“互斥性”(exclusive)選択関係があると思われる。

- (17) この店に行けば、必ず牛肉か羊肉かがある。
- (18) 洪水で道路が壊れたので、飛行機か船で行くしかない。

(例文 12、13 再掲)

表 6 「か」

| A | B |   |
|---|---|---|
| + | + | ✓ |
| + | - | ✓ |
| - | + | ✓ |
| - | - | ✗ |

「か」 → A, B, A+B

以上の内容をまとめると、表 7 のようになる。

表 7

|           | と | や | か |
|-----------|---|---|---|
| A, B, A+B | ○ | ○ | ○ |
| A+B (のみ)  | ○ | × | × |
| C         | × | ○ | × |

一方、中国語の“和”“或”に関して、朱(1980)では、表 3 を挙げて「和」に「A + B -」「A - B +」の意味がないと説明しているが、その説明には疑問が残る。

- (19) a. 学校の出入りには従業員証明書や学生証が必要です。
- b. 出入校門必須凭工作证或(×和)学生证。

(例文 5 再掲)

確かに(19)のような例では、学校に出入りする人は普通、教職員か学生かその他従業員に限られており、従業員証明書と学生証の両方を持っている人がいるとはまず考えられない。(19a)の日本語において、「や」そのものが「または」の意味を持つことができる。一方、(19b)の中国語において、特定の文脈がないと、“和”そのものが「または」の意味を持っていないため、“和”を使わずに、“或”(huo)を使うのが普通である。

しかし、馬(2008)は以下の条件下において「和」が「または」の意味を表すと指摘している。

① “和”で連結する要素が選択でき、文の頭に置かれ、文中には選択を表す提示がある。

例：苹果和梨子，你要什么？（リンゴとナシ、どっちがいい。）

② 文中に選択を表す提示がなければ、“和”で連結する要素が対立し、同時に起こることができない。即ち、「A Yes B No」か「B Yes A No」かのどちらである。

例：走和留，他都没意见。（帰るか残るか、彼にはどうでもいい）

③ “无论、不论、不管”の後ろに使われ、ふつう“都”と呼応する。“和”で連結する要素が対立する。

例：不管去和不去，你都要给我回复。（行くか行かないか、必ず連絡してください。）

よって、朱(1980)は説明が不十分であるといえる。ただし、馬(2008)が提出した条件にも問題は存在する。まず①では、選択を表す提示があればよいと思われる。なぜかというと、

(20) 请您从红色、黄色和蓝色中选择一种您最喜欢的颜色。 (作例)

であれば、文の頭に置かなくてもよい。

また、②と③は、実は一つの条件としてよい。②の例文に“无论、不论、不管”などを加えると、意味が変わらずに③の条件と一緒になる。③の例文の“无论、不论、不管”などを削除すると、意味が変わらずに②の条件と一緒になる。即ち、“无论、不论、不管”は「和」が「または」を意味する条件には関与していないのである。

ここで改めて“和”が「または」を表す条件を指摘する。

A. 対立条件：“和”で連結する要素が対立的であり、同時に起こることができない。即ち、「A Yes B No」か「B Yes A No」かのどちらである。

(21) a. 考学和就業，你必须尽快作决定。

b. 進学か就職か、早く決めなければなりません。 (例文 4 再掲)

(22) a. 韩国法務部称，截止到去年 2 月，通过留学和语言研修签证到韩国的中国人达 6.3216 万人。

b. 韓国の法務部によると、去年の 2 月まで、留学と言語研修でビザを取って、韓国へ行った中国人が 6.3216 万人もいたそうです。

[http://zhidao.baidu.com/link?url=vsLIOGrcwosRAKNKcYTPpW8gQ9KXGBUT9yhMxD\\_R5eILYngYhkMC8h9kPSHpLTVmHadNRv8kUh8N0cxlwrMa](http://zhidao.baidu.com/link?url=vsLIOGrcwosRAKNKcYTPpW8gQ9KXGBUT9yhMxD_R5eILYngYhkMC8h9kPSHpLTVmHadNRv8kUh8N0cxlwrMa)

(筆者が 2013/11/24 14:25 検索)

B. 選択条件：文中には選択を表す提示がある。語用論的に「または」の意味を付与する。

(23) a. 苹果和梨，你要什么。

(马 (2008) : p.55)

b. リンゴとナシ、何がいい。

## 5. まとめ

まず、日本語の「と」と「や」には「要素の列挙」と「カテゴリーの例示」というはっきりした境界が存在する。一方、その観点から中国語を見ると、“和”には両方の機能がある。このように、中国語においては、“和”という一つの並列接続詞で様々な並列が表せるのに対し、日本語においては、「と」「や」など複数の並列助詞が存在するわけである。

よって、日本語から中国語を見る場合、「と」も「や」も“和”と対応する。中国語から日本語を見る場合、“和”が要素の列挙を表せば、「と」と対応し、カテゴリーの例示を表せば、「や」と対応する。

次に、並列された各要素と述語や他の要素がどう結び付くのかという問題に関して、いわゆる「かつ」か「または」の問題に関しては、「か」と“或”は対応しているが、「と」「や」と“和”には重なる部分もあり、異なる部分もある。異なる部分において、「か」と“或”についての考察も必要になってくる。一般的には、“

和”が「と」と対応し、「かつ」を表す。従って、「と」と「や」が「または」の意味を表す際は、“和”と対応しない。

一方、“和”が二つの条件を満たせば、「または」を表すことができる。この例外的な“和”、すなわち“和”が「または」の意味を表す場合は、日本語の「と」か「か」と対応する。対立条件の場合「か」と対応する。選択条件の場合「と」と対応する。

## 6. 今後の課題

まず、「や」の「カテゴリー性」の観点からの分析には、「A や B のような」と「A 和 B 之类的」などの比較をする必要があると思われる。

次に、“或”はどのような場合に「かつ」を表すのか、どのような場合に「または」を表すのかについて整理するつもりである。

また、「と」も「や」も「かつ」と「または」両方の意味を持っていることが分かったが、それぞれどのような場合に「かつ」を表すのか、どのような場合に「または」を表すのかについてはまだはっきり解決していないところである。

これらに関しては今後の課題とする。

## 参考文献

- 安藤淑子（1995）「日本語の名詞及び動詞における並立表現の構造—開いた系と閉じた系—」『広島大学日本語教育学科紀要』5 pp.11-13 広島大学教育学部日本語教育学科編
- 安藤淑子（2001）「中級レベルの作文に見られる並立助詞「や」の問題点—「と」の用法との比較を通じて—」『日本語教育』108 pp.42-50 日本語教育学会編
- 市川保子（1991）「並立助詞「と」と「や」に関する一考察」『文芸言語研究 言語篇』20 pp.61-79 筑波大学文芸・言語学系編
- 小野秀樹（2008）『統辞論における中国語名詞句の意味と機能』白帝社
- 柏木成章（2006）「「全体化」と「類化」—並立助詞論、特に「と」・「や」を中心として—」『大東文化大学別科論集』8 pp.99-107 大東文化大学
- 国広哲弥（1967）「「And」と「と・に・や・も」—日英両語語彙の比較—」『言語研究』50 pp.34-49 日本言語学会

- 鈴木慶夏 (2004) 「並列標識の生起しない並列構造」 『日本中国語学会第54回全国大会予稿集』 pp.70-74 日本中国語学会
- 寺村秀夫 (1984) 「並列的接続とその影の統括命題—モ、シ、シカモの場合—」 『日本語学』 3-8 pp.67-74 明治書院
- 中俣尚己 (2007) 「「や」による並列と「も」による並列の相違点—並列される名詞句の類似性に注目して—」 『日本語文法学会第八回大会発表予稿集』 pp.170-177 日本語文法学会
- 中俣尚己 (2009) 「名詞句並列マーカーの体系的分析—「と」・「や」・「も」の差異に着目して—」 『日本語の研究』 5(1) pp.31-45 日本語学会
- 生田目弥寿 (1988) 「名詞の並列」 『国際学友会日本語学校紀要』 12 pp.69-75 国際学友会
- 朴点淑 (2006) 「現代日本語における並立助詞「と」「や」」 『岡山大学言語学論叢』 12 pp.51-62 岡山大学文学部
- 半藤英明 (2005) 「並立助詞「と」と「や」の構文上の相違について」 『文学・語学』 181 pp.42-51 全国大学国語国文学会
- 森山卓郎 (2005) 「「や」と「と」のちがいをどう説明するか」 『京都教育大学国文学会誌』 32 pp.1-10 京都教育大学国文学会
- 邓云华、储泽祥 (2005) 英汉联合短语的共性研究 《外语与外语教学》 第2期 25-29
- 郭曙纶、郭建平、曹晓玉 (2012) “和”与“或”连用及其规范 《现代汉语虚词研究与对外汉语教学(第四辑)》 95-103 学林出版社
- 胡光斌 (1996) “和”类连词的特殊功用 《黔南民族师专学报》(哲社版) 73-76
- 廖秋忠 (1992) 现代汉语并列名词性成分的顺序 《中国语文》 第3期 161-173
- 吕淑湘 (1979) 《汉语语法分析问题》 商务印书馆
- 马芬 (2008) 现代汉语虚词“和”与英语对应词的对比研究 中南大学硕士学位论文  
文
- 倪宝元、张宗正 (1986) 《实用汉语语法》 福建人民出版社
- 牛丽 (2008) 从价语角度看现代汉语连词“和” 吉林大学硕士学位论文
- 王少莹、杨白云 (2000) 谈并列连词“和”的用法及其新发展 《福建教育学院学报》 第1期 69-72
- 叶盼云、吴中伟 (1999) 《外国人学汉语难点释疑》 北京语言文化大学出版社
- 张斌、胡裕树 (1989) 《汉语语法研究》 商务印书馆
- 张亚茹 (2005) 《红楼梦》中的并列连词 《语言教学与研究》 第3期 33-39

- 鄭亨奎（1989）「接続表現の日中対照研究—語の並列を中心に—」『教育学研究紀要』35 pp.136-141 中四国教育学会
- 周刚（2001）「单纯并列连词及其相关句式」『日本中国語学会第51回全国大会予稿集』pp.35-39 日本中国語学会
- 周先武（2008）“And”与“和”的句法行为对比 《牡丹江大学学报》第17卷第7期 71-74
- 朱德熙（1980）“或”与“和” 《山西青年》第5期 1-3
- 朱庆祥（2010）连词“和/或者”居于条件判断句前项引发的相关问题 《汉语学习》第3期 37-46

#### コーパスデータ

中日対訳コーパス（2003）北京日本語学研究センター（第1版）

#### 辞書類

- 伊地知善継（2002）『白水社中国語辞典』白水社
- 北京・商務印書館、小学館（1992）『中日辞典』小学館
- 侯学超（1998）《现代汉语虚词词典》北京大学出版社

ヒョウ ゲン／人文社会研究科  
（2014年10月31日受理）